



## 奉仕しよう みんなの 人生を豊かにするために

# 会報

2021 ▶ 2022  
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長目標

## 歯車を回し続けよう

会長／高橋 理佳 幹事／武田 佳彦

### プログラム

(第22回・第23回・第24回)合併号

- 本日  
「地区研修・協議会報告」
- 次週予定  
会員卓話「我が生き立ち」  
谷口 善彦 会員

結婚記念日  
辻 本 哲 也

No. 2913

第22回 5月18日

出席報告

前例会

会員総数	25名
出免会員	4名
出免出席	3名
基準会員出席	19名
出席率	79.16%

前々例会

第20回 4月20日

欠席会員	4名
内メイクアップ	0名
修正出席率	86.00%

例会／毎週水曜 12:15～13:15

### 🖋️ 会長報告 .....

- 4月21日第11回定例理事役員会を開催し、5月・6月の例会プログラムと会計報告を承認しました。

### 📁 幹事報告 .....

- 羽幌、砂川、芦別、滝川ロータリークラブより、5月例会案内と会報を受領しております。
- 本例会場の公益財団法人留萌地域人材開発センター運営協会様より、通常総会のご案内を受領致しました。
- 本年度下期分の会員証を本日配付いたします。大変遅くなりまして、すみませんでした。

### 👤 委員会報告 .....

次年度 青山 副幹事

地区に顔を出して、地区クラブ奉仕委員会の次年度目標が書いてある名刺サイズのカードを預かってきました。地区テーマは「ロータリーに想いを馳せる」で、クラブ奉仕委員会の次年度の目標は、「クラブの活性化のために寄り添った活動！クラブが主体！」です。皆様に配付いたします

### 🏌️ 愛好会 .....

ゴルフ愛好会 大嶋 愛好会会長

本当に久しぶりの愛好会報告です。今年度6月12日、深川カントリークラブにて午後0時スタート。非公式ですが、第1グループのゴルフ

コンペを開催したいと思います。昨日、深川クラブを鈴木ガバナー補佐と訪問した際に、深川クラブの成田会員よりお話があり、「IMが中止になったが交流会ということでやりませんか」との連絡を受け開催することになりました。明日、羽幌クラブにガバナー補佐と訪問致しますので羽幌クラブにも連絡を入れておきます。後ほど皆様には連絡網にて回しますので、よろしくお願い致します。

## ニコニコBOX

- 本日は、中西市長をお招きすることが出来ました。宜しく申し上げます。 高橋会長
- 中西市長、本日はよろしくお願い致します。 武田幹事
- 5月も良いことがたくさんありますように。 串橋エレクト
- 中西市長、ようこそロータリークラブへ。本日はよろしくお願い致します。 燕副会長
- 中西市長、本日はよろしくお願い致します。 大嶋例会運営委員長
- 中西市長、本日はありがとうございます。ちょっと良いことがありました。辻本直前会長
- ちゃんもオープンしました。盛況で建設に携わって良かったです。 桜元会長監督
- 中西市長、講演よろしく申し上げます。 西原会員
- 中西市長、お忙しい中お出でいただきありがとうございます。 福士会員
- ようこそ留萌ロータリークラブへ。中西市長の卓話、楽しみにしています。 西谷会員
- 中西市長、本日はよろしくお願い致します。次年度、色々とお願ひしたいことがあります。よろしくお願い致します。 青山会員
- 中西市長、ようこそ留萌ロータリークラブへ。 関野会員
- 中西市長、本日はありがとうございます。 谷口会員

前 回	485,000円
今 回	20,000円
累 計	505,000円

## プログラム

### 来賓卓話

#### 「留萌市が目指す未来」

留萌市長 中西 俊司様  
本日はお招きいただき、誠にありがとうございます。このお招きも何回目になるでしょうか。最初に連絡を



いただいたのが2月でございまして、その時は選挙の告示前で、これからの考え方をお話する機会でちょうど良いなという思いもあったのですが、それもコロナで出来なくなったという状況で、もう3年目に入ります。今日は本当に悲しいニュースが飛び込んできましたが、コロナにより自分たちが活躍できる場を失われていくことで、心が病んでいくことになったのかなと改めて思った所です。そういう意味では留萌という地域で、仕事と趣味を生かしながら、家族と楽しみながら、そういう生活をして心を癒していくことが田舎から都会に向けて伝えていければ良いなと思います。働き方改革も含めて、生活スタイルも変わっていています。ただ、地域にいる私たちは多分鈍感なのではという気もしています。それがかえて良かったのかなとも思っています。

今日は次の時代へ続く留萌ということでお話ししようと思っておりますが、実はコミセンでも市民に向けて「みんなで作る、まち・ひと・きぼう、次の時代へ続くもい」として、まちづくり懇談会を実施する予定ですので、これが前段になると思います。ですから、そのような場所で話を聞いた時、この話聞いたことがあると言わないでご理解いただければと思います。

本日のテーマとして、1.今年度の重点分野施策。2.これから進める課題。ということで話を進めさせていただきます。

まずは1期目の主な施策ですが、これにつきましてはここに書いてある通りですので、多くは説明致しません。ただ、4年間の集大成として「屋内交流遊戯施設 ちゃんも」を作ることができました。これは全国的にも人口減少は進

み、子供が生まれなくなり、これをいかに防いでいくのかということで「子育て支援」というのが主流になっています。この子育て支援の話の中で出てくるのが、子供たちの遊び場が無い。選挙になると候補者が出てくるのが、子育て支援です。私も高校生までの医療費の無料化を致しました。1期目は中学まで、2期目が高校生まで。大学生までタダという所もあるそうです。今、留萌市にてオープンした「屋内交流施設 ちゃいるも」ですが、今ここにいる方のほとんどが、屋外で遊ぶ方が良いと考えていると思いますが、最近は親子や家族で時間を過ごせるくつろぎの空間と地域特産品などの魅力を発信する道の駅の新たな交流拠点として、4月29日ゴールデンウィークに12,000人が訪れました。遊戯施設にはコロナの関係で時間制限がありましたが、2,600人の子供たちが遊びに来ました。このような施設を作ると人間の本能的には「外にも遊具施設があればイイね」となりますが、ロータリーの皆さんには昨年60周年の石碑を贈呈していただき、市内へ誘導する観光案内の地図も提供していただきました。私もこの道の駅から市内へ人の流れを誘導することを考えています。今回、天気あまり良く無かったので逆に屋内が喜ばれる結果になりました。

私が考える市政執行方針の五つの実行として、一つ目に市民の生活力の向上。二つ目に活気ある元気なまちづくり。三つ目が教育・子育て環境の充実と子供たちの夢の実現。四つ目が市民の暮らしが安心できるまち。そして五つ目が確かな財政運営と信頼です。これらの方針を考えながら、今年度の重点分野施策としてデジタル教材を活用した教育の質の向上のほか、地元高校で安心した教育環境の支援を取り入れて行こうと考えています。子供たちに端末を1台持たせる。留萌市と河合塾との包括連携協定の締結も致しました。教育の標準化、留萌でも都会と同じような授業が受けられる。今、子供の時代から留萌離れが進んでいます。より良い学校を目指して中学校から都会の学校を目指す人が増えています。今年は市内中学校から都会の高校へ勉強なのかスポーツなのかは色々ですが、25



人の子供が出て行っています。昨年、留萌高校の間口を4間口から3間口に変更しようと、道教委から連絡・提案をしてきました。これに対して、それを何とか阻止することが出来ました。今年の普通科入学者は126名で4間口を確保致しました。この4と3の違いはABCの3段階があるとして、BからCに落ちるようなものになります。そうすると着任する校長先生も違うとのことで「裏には色々なことがあるよ」ということを聞いていましたので、何とか4間口を確保したいということと、子供たちが補助的にソフトを使って更なる勉強が出来るようにしていくため、河合塾と包括連携協定を結びました。この成果が出るのは、やはり2~3年後になると思いますが、やれることをやっていくことが大切だと思っています。また、それと合わせて卓球メーカーのピクタスさんと包括連携を結んで、卓球を通じたまちづくりと子供たちのチャレンジを後押ししていただくために、留萌高校に補助指導員として辞令をもらって、留萌高校卓球部の顧問をしていただいております。その他に中学生や高齢者の人々にも教えていただいております。現在、越境で高校生が2名留萌へ来ています。これからは卓球だけではなく色々なスポーツにも対応できればと思っています。

次にふるさと納税についてですが、これは留萌市にとって非常に大きな財源となっております。元々5,900万だったのが、昨年7.4億円と大幅な増加となりました。これはやはり地元の協力がなければなかなかできないのですが、お米であったり、留萌と言えば数の子だったり、今はいくら結構順位を上げている所です。そ

## 第21回 5月11日(水) 天候/晴

んな訳でJALから職員を派遣していただき、ファーストクラスのシェフに監修をお願いし、食資源のPRやJALふるさと納税サイトで富裕層向けの返礼品開発を進めています。今年のおふるさと納税の目標額は15億円にしたいと、職員から力強い声が上がりましたので、その位の気持ちで頑張りたいと思っております。7億4千万円の内、半分が基金として使用でき、1/3の1.5億円が企業の利益となります。15億円となると約7億円が基金として使えて5億円が企業売り上げになります。これからはやはり、知恵とアイデアが勝負という全国的な戦いとなっていきます。ただ絶対勝てないのがカニで、歯が立ちません。根室や紋別ですと100億近くの納税額ですから、もしカニでも採れたなら一気に風向きが変わりますが、残念ながら留萌ではクリガニにか採れません。

今年度の重点分野施策では、新型コロナウイルス対策と安心した医療体制の確保として、市内はもとより管内医療圏全体での感染症患者の受け入れ、検査体制の整備をしています。留萌の接種率は90%と高いのですが、やはり3回目の接種率が下がっているのが残念な状況です。管内でも数が多く発表になることがあります。全体的に見ても留萌は少ない方であり、マスク着用率も高く、そんなに心配することは無いように思えます。コロナと経済がうまくバランスをとって、発生が抑えられたなら飲食店も商売になりますし、市内も活気づくのではと思います。またこのような状況ですが、コロナ禍においても地域にとって必要不可欠な救急、小児、周産期医療の提供体制の維持に努めています。

次に今まで色々言われてきましたが、留萌市の財政問題についてです。留萌市はいかなる情勢でも市民生活に影響を及ぼさない財政計画を策定し、身の丈に合った攻めと守りの堅実な財政運営に努め、予算を有効活用し市民生活に潤いや子育て支援、市外からの投資を呼び込みます。留萌が財政的危機だったのが平成19年で、国が言う実質公債比率18%を超えた時でございます。これにはからくりがあって平成12年に国勢調査があり、留萌市が過疎団体に指定され、

留萌市が過疎団体になり、そうすると借金しても5割から7割が国から戻ってくるシステムになっています。それまでは返すお金は借りれば借りるだけ借金として返していかなければなりません。平成12年前後、平成10年から13年にかけて留萌市では市立病院やごみ焼却施設など色々なものに投資を行いました。その返還ピークがその時に来ていて、徐々に借金を返還することができ、現在では12.5%という比率になっています。国から言わせると10%を切ることがベストの状態と言われておりますが、投資無くして街の発展は無いと思いますので、あくまでも投資をしながら市政運営を考えていきたいと思っております。

これから進める施策は、JR留萌本線問題の解決と交通手段の確保。アウトドア観光の推進と道の駅エリアへの拠点施設整備。ゼロカーボンへの取り組みと洋上風力発電誘致。地域社会のデジタル化対応。これらを推し進めていくつもりです。JR留萌本線問題ですが、地元の負担による維持は困難ですので、この駅前再開発を新たなまちづくりの機会と捉えて廃線を受け入れると共に、コロナ禍により経営が厳しいバス・タクシーを活用した新たな交通手段の確保や道の駅周辺エリアの再整備を実現させます。現在、検討中の代替交通は早朝夜間の留萌駅ー深川駅の直通集合タクシー予約制の運行、留萌旭川線の確保と一部速達便の運行。正直にお話すると、JR問題は来年3月31日をもって廃止したいと思っております。まだまだ沼田、秩父別、深川との話し合いが進まず承諾は得られておりませんが、一部開始一部存続ということで動いております。今後JRとの協議でレールをはがしたり、建物の取り壊しなどで色々お金が掛かりますので、その話し合いをしなければなりません。ちなみに増毛線廃止の場合は約10億円位の解体整備費と地域振興策として3000万円が出ています。10億円は3年間に分割支払いだと聞いております。増毛線の跡地利用についてはサイクリングロードにしたり、色々話がありますが、まずは信砂からの送水管を埋めたいと考えています。

次にアウトドア観光ですが、観光の推進と道の駅エリアの施設整備を進めるということでモンベルさんと話を進めています。他の市町村もモンベルに来て欲しいと日参しているようで、それによる街の活性化を計画しているようです。副市長として留萌市に入った渡辺副市長がつてを使って交渉ができるようになり、この自然を活かしながら地域の活性化に向けた街づくりを考えております。道の駅に施設を建設する予定ですが、井原さん側にモンベルショップ、モンベルアウトドアビレッジというものがありますが、これはすでに高知県にもあるので、ロッジを併設し1棟2戸となっておりますが、留萌市では別な形ですが1棟6戸のもので24戸建て、モンベルビレッジという基地化を図っていく、遊ぶこともでき、ショッピングもできる場とする。まずはお店を誘致する。次にロッジを作る。次にユニットキャンプ、ベランダにちょっとした子屋根があって、そこにキッチンとトイレとシャワールームがありベランダにテントを張ることができるちょっとレベルの高いキャンプ、オートキャンプ、RVキャンプ、RVパークとしてこの公園をうまく活用できれば、非常に多くの方を迎えることができるのではと考えています。先日モンベルの会長さんと会って、いつまでに目途を付ければと言われ、4年間でという話は相手方にお話を致しました。地域の課題を話し合っ、まさに暑寒を活用するですか、留萌ダムを活用するだとか、サイクリングを利用するだとか、天売焼尻を活用するだとか、本当に多くの自然を活かしたアウトドア戦略として、趣味と仕事を活かして余裕のある生活を送りながら子供たちは18歳までは留萌に居るというイメージで、一度出て行った子供たちもいずれ留萌に帰ってくるような生活を循環させていければと考えています。2万人を切った人口がそう簡単に増えることはありませんが、一定程度の人口を確保することができると思います。

最後に、国がゼロカーボンを推し進めておりますが、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、洋上風力発電を再生エネルギーの主力電源化に向けた切り札とし、国内における案件

形成を目指しています。留萌市としても、地域のポテンシャルの大きな風力を特色あるエネルギーとして活用することで、国全体の気候変動対策に貢献ができ、さらに地元産業への好影響が期待できることから海域利用に向けた地元の合意形成を図りながら、洋上風力発電誘致を目指していきたいと考えております。重要港湾留萌港が日本海沿岸における洋上風力発電事業における資機材の積み上げや組み立てなどの拠点港として重要な役割を果たせるよう国とも協議を進めていきます。今、ロシア・ウクライナ問題がありますが、これからエネルギー問題による地球温暖化への対応が迫られますので、この話は将来に向けて重要な話となります。

今、地域社会のデジタル化が急速に進んでいますが、今後行政手続きや情報の伝達などがスマートフォンなどのデジタル機器中心となるデジタル社会へ加速することから、情報格差(デジタル・デバイド)の是正やマイナンバーカードの取得など、デジタル化への普及を図ります。留萌市における光回線は100%基礎工事ができていますので、後はそれぞれ家につないでもらうということで市内は全然問題がありませんが、市街地・樽真布も含めて、なかなか進んでおりませんでした。すべてで光回線が張り巡らされたことにより、利便性が上がると確信しています。多くの課題を持って来てしまいましたので時間が無くなってしまいました。また機会がございましたら、お伺いしたいと思います。

本日は貴重な時間ありがとうございました。

プログラム

(第22回・第23回・第24回)合併号

●本日

会員卓話「我が生き立ち」

谷口 善彦 会員

会員誕生日

山本 譲 二

●次週予定

「グループディスカッション 行灯について」

No. 2914

第23回 5月25日

出席報告

前例会

会員総数.....25名  
出免会員.....4名  
出免出席.....3名  
基準会員出席.....18名  
出席率.....75.00%

前々会

第21回 5月11日

欠席会員.....6名  
内メイクアップ.....0名  
修正出席率.....75.00%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

 会長報告 .....

1. 地区から規定審議会の和訳された文章が届いております。当クラブに該当することも何点かあります。理事会の議事録を会員に公開する期間が60日から30日に変更となっております。また、次年度人頭分担金が上がります。出席免除は理事会承認でしたが、書面にて幹事へ提出して要件が満たされていれば承認となります。これらの件で承認できなければ、書面をもって8月までに地区に報告することになっていきますので、次年度へお渡しいたします。

 ニコニコBOX .....

- 地区協議会の報告楽しみにしています。昨年はオンラインだったのでうらやましいです。  
高橋会長
- 福士さん、燕さん、桜元さん、地区研修協議会の報告よろしくお願い致します。  
串橋エレクト
- 本日ピンチヒッターで卓話を致します。宜しくお願い致します。  
燕副会長
- まだまだ勉強します。  
武田幹事
- 少し良いことがありました。  
関野会員

前回 505,000円  
今回 7,000円  
累計 512,000円

 幹事報告 .....

- 深川ロータリークラブより、会報・5月例会プログラムを受領しました
- 第1グループ鈴木ガバナー補佐と深川ロータリークラブ宮澤会長連名で、第1グループ親睦ゴルフコンペのご案内を受領しました。参加希望者は、ゴルフ愛好会大嶋委員長へお問い合わせください。
- 留萌商工会議所青年部より、通常会員総会出席への礼状を受領しました。
- 留萌自衛隊より、留萌駐屯地創立69周年記念行事のご案内を受領しました。

 プログラム .....

「地区研修協議会報告」

【奉仕プロジェクト部門】

福士 会員

次年度の奉仕プロジェクト委員会の第1回目を開催しましたので、その結果も交えて報告します。



国際ロータリーのテーマ「Imagine Rotary」  
2510地区テーマ「ロータリーに想いを馳せる」  
馳せるということなので、はしらせる、はしる、

かける、歩いている場合ではないよ、ということなのでしょう。

そして、具体的な地区目標が

1. クラブの将来像を打ち立てる
2. より多くの会員の参加を得てクラブにおいて、新たな事業にとり組む
3. 青少年への支援を発展・充実させる
4. ICTも利用して交流の輪を広げる。

この地区目標を受けて、次年度申橋会長から「青少年事業を一生懸命やってください」との指示が出ています。それを受けて、小学生以下の卓球体験教室を9月25日(日)午前中に開催する予定でいます。(これは補助金事業です) ほぼ事業概況は出来上がっています。あとはコロナの状況を見ながら、皆様のご協力をお願いするだけになっています。これを出したら、また次年度申橋会長から「以前に実施した職業体験事業のようなものをもう一度やったらどうだろうか」との指示が出てきました。いくらでも出てくると思っているのでしょうか？

そこで、2023年の5月～6月頃に留萌管内の農業・酪農・漁業の体験学習を行い、将来の農業・漁業の担い手、また食育学習を行ってはどうだろうかと思っています。こちらのほうはまだ何も決まっておりません。皆様から情報を得ながら「ロータリーに想いを馳せたい」と思っておりますが、私個人に関しては、何十年も走ったことがないので、たぶん馳せるのは難しいと思っています。皆様のご協力よろしくお願い致します。

分科会のほうは、第3分科会のクラブ奉仕部門に参加しました。地区にはクラブ奉仕委員会の中に公共イメージ向上委員会、ICT委員会、ロータリー情報委員会があります。その中の公共イメージ向上委員会のなかで、

\*どのように伝えるか！伝える方法としてというところがありました。

広報活動：地元メディア記者をクラブの特別イベントや活動に招待する。

メディア対応：メディアへの働きかけ

マーケティング：例えば、卓話をしてくれた人との連絡を保ちクラブのイベントに参加

してもらうための情報を伝える。

ソーシャルメディア：視覚的に魅力があり、クラブの活動を生き生きとあらわすようなコンテンツを投稿する。

クラブのウエブサイト：写真・動画の活用

そして、イベント／行事を通して伝えていくということがあります。これは、地域社会での認識を高めるため、特色ある毎年恒例のイベントを開催するというものです。私個人としては、留萌クラブの場合…イベント／行事を通して地域社会に溶け込み、留萌地域にはなくてはならない留萌ロータリークラブにしていくのが公共イメージ向上に一番役立つのではないかと考えております。その一つの方法として、今年は補助金事業ですが、小学生以下の卓球体験教室を恒例事業に育てていきたいと思っているところで

## 【青少年奉仕部門】

### 燕 会員

私は次年度青少年委員を担当し、この度の地区研修協議会では第7分科会青少年奉仕部門に出席いたしました。



青少年奉仕部門は5つの委員会に分かれていて、地区青少年奉仕委員長である恵庭の西村委員長の進行の元、行われました。2022-2023年度の石丸ガバナーが地区目標として掲げております「青少年への支援を発展・充実させる」を踏まえ、この度の分科会は構成されているような感じを受けました。

では、5つの委員会の報告をさせていただきます。

一つ目は、青少年奉仕委員会で主に青少年に関わる危機管理のお話でした。行事を行うことに賠償責任保険を掛け突発的な事故等に対応するけれども、参加者側の自己責任においては対応できない保険など、また最近ではセクハラ被害や人権侵害にあたるものもあり、青少年の活動において傷害保険の大切さの説明がありました。また、一般社団法人国際ロータリー日本青

## 第22回 5月18日(水) 天候/晴

少年交換多地区合同機構 (RIJIM ライジム) のHPの紹介がありました。皆さん聞きなれないとは思いますが、2000年に青少年プログラムを支援するために設置された組織です。皆さんもお時間あるときに“ライジム”と検索し、ご覧になっていただければと思います。

二つ目は、インターアクト委員会で活動内容の説明、海外研修や地区大会での並行プログラムのお話でした。

三つ目は、ローターアクト委員会より2510地区5か所のローターアクトクラブの活動内容の説明と、2019年の規定審議会でローターアクトクラブが国際ロータリーの加盟クラブに含まれることとなり、2022年7月からはローターアクトクラブも国際ロータリーへ人頭分担金を支払わなければならない、またスポンサークラブの有無に関わらずローターアクトクラブを新設できたり、全ての地区委員会にローターアクターを加えることを推奨されていたりと、様々な変更点の説明がございました。まとめると、ロータリアンとローターアクトの立場は同じであり、人頭分担金の支払いと年齢制限はなくなったが、アクトの地区役員は若い人が望ましいということとなり、今後の対応として、急激な変化ではなく緩やかな変化で対応していくこととなるというお話でした。

四つ目は、RYLA委員会より年間の活動内容とロータリーがRYLAを立ち上げ目指すものやねらいを伝え、次世代のリーダー育成の必要性が伝えられました。RYLAに関しては数年前ですが卓話でお話をさせていただいたことを思い出しました。

最後の委員会となりましたが、青少年交換委員会です。青少年交換に関しては、RIが最も大切にしているプログラムです。青少年交換についての概要や可能性の広がり、費用のお話などがございました。また、帰国後は親善大使として1年間の活動や今後の留学生のサポートとしての役割などの説明がありました。2023-24年度の学生募集要項もいただきましたので、興味のある方は是非お声をかけていただければと思います。この委員会の結びに、ロータリアン

でもあったアメリカ合衆国第32代大統領のフランクリン・ルーズベルトの言葉で「私たちは、若者のために未来を創れるとは限らない。しかし、未来のために若者たちを創ることはできる」。まさにロータリーが青少年育成のために5つの委員会を設けている根源だと思いました。先程、福士委員長からもお話があった通り、留萌クラブの今年は青少年の普及活動に力を入れ、ルーズベルトの言葉を実践するような活動になると思います。朝からまじめに参加をし、非常に長い一日ではありましたが、最後のこの言葉を聞いて得るものがあったと感じております。

以上で第7分科会青少年奉仕部門の報告を終わります。ありがとうございました。

### 【社会奉仕部門】

#### 桜元会員

入会4年目にしてクラブの重要委員会の会合に参加、発表せよと命令を受け、大変プレッシャーを感じております。初めにマイロータリーに登録することから始まりましたが、マイロータリーの登録に1週間かかってしまいました。それが終わらないと研修が始まらないということで、開催3日前に何とか登録を終了いたしました。当日、第5分科会については3つの柱となる事柄と2つのクラブの事業報告の後、事業の報告についてのディスカッション及び2500地区の奉仕委員長の野村様より2500地区の活動報告がありました。

3つの柱となる事柄は、「クラブの将来像を打ち立てる」「より多くの会員の参加を得て、クラブにおいて新たな事業に取り組む」「青少年への支援を発展・充実させる」で、これらを進めていくことになっています。

2クラブの事業報告については、札幌東ロータリークラブと倶知安ロータリークラブの活動報告があり、札幌東クラブは聾啞者とのフットサル交流。エスポラーザ北海道を関連に抱きこみまして、子供及び障害者・北海高校・企業・色々な個人団体・地域・プロとも連携していく





という形になっているそうです。これを開催すると、また参加したいと90%以上の方が望んでおり、継続できる事業となり補助金事業として活用ができる。毎年4月に補助金事業を考えて申請する手間が省ける、という話も出ました。4年～5年の会員ではこの補助金を使った補助金事業を提案するのが難しく、「補助金の申請の仕方が分からない」「継続する事業をするにしても今のクラブの会員数では活動範囲がしばみがちになる」「インパクトも薄くなる」、それで他の団体と合同で事業を開催するという提案もありました。それにより新しいパートナーシップを構築していけるというメリットも話されました。あと、一番重要なのが広報の重要性。ロータリークラブは何をしているのか、もっともっと市民に知ってもらうことにより、クラブの存

在価値もあがりますので、地元新聞に記事を掲載してもらおうとか、SNSで情報を発信するとかの話がいっぱい出てきました。

「来年の目標が“イマジン”ですので、皆様もイマジンという想像をしながら未来のクラブの在り方について取り組んでください」というお話でした。2500地区の社会奉仕委員長のお話では、ロータリーの会員だけで事業を考えるとやはり小さいものになります。地域を巻き込んだ活動をしていく。これにはやはり人が居ないと大変になります。会員の増強が一番大切だということが話され、締めくくりの言葉がありました。デスクッションなどもありましたが、それはユーチューブにてご確認ください。以上、報告に代えさせていただきます。

## プログラム

(第22回・第23回・第24回) 合併号

●本日

「グループディスカッション 行灯について」

●次週予定

「会員卓話」 武田幹事

No. 2915

第24回 6月1日

出席報告

前例会

会員総数……………25名  
出免会員……………4名  
出免出席……………2名  
基準会員出席……………17名  
出席率……………70.83%

前々会

第22回 5月18日  
欠席会員……………6名  
内メイクアップ……………0名  
修正出席率……………75.00%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

## 幹事報告

- 芦別ロータリークラブより、6月例会案内を受領しました。
- 地区国際奉仕/VTT委員会より2021-2022年度国際奉仕人道支援事業報告会のご案内を受領しました。開催形態はハイブリッドですので、リアル参加及びズーム参加が可能となっております。参加ご希望の方は5月31日までにお申し付け下さい。

## 愛好会

### 湯どうふ会

本日6時30分より、谷口会員の歓迎会を開催致します。場所は旧うめださんのアメックス司です。場所をお間違え無いようお願い致します。

皆さん方に、歓迎会開催前に谷口会員に向けての質問をカードに書いていただく作業がありますので、本日の谷口会員の卓話を聞いて色々質問をぶつけて下さい。ビンゴゲームも行います。1枚1000円です。宜しく願い致します。

### 燕湯どうふ会幹事

## ゴルフ愛好会

鈴木ガバナー補佐

6月12日(日)開催の第1グループ親睦コンペの案内です。羽幌クラブは1組4名の参加ですが、留萌クラブからは多くの会員の参加をお願い致します。参加希望者は大嶋ゴルフ愛好会会長まで。



## ニコニコBOX……………

- 谷口会員の我が生き立ち、楽しみです。

高橋会長

- 谷口さん、本日の我が生き立ち楽しみにしています。

串橋エレクト

- 谷口会員、卓話楽しみにしています。

燕副会長

- 谷口さん、本日よろしくお願ひします。

武田幹事

- ちょっと良い事がありました。辻本直前会長

- 谷口会員、これからもよろしくお願ひします。

西原会員

- 谷口さん、我が生き立ち楽しみにしています。

関野会員

- 本日卓話ががんばります。谷口会員

- 久しぶりに皆様に会えてうれしかったです。

1位ありがとうございます。 田中(美)会員

- 喜びのおすそ分け。 武田会員

前 回 512,000円

今 回 17,000円

累 計 529,000円



## プログラム……………

### 会員卓話「我が生き立ち」

谷口 善彦会員

改めまして、北海道電力ネットワーク株式会社留萌ネットワークセンターで所長をしております谷口善彦です。本日は「我が生き立ち」についてお話をしたいと思います。

今年の4月1日付けで、帯広支店足寄ネットワークセンターより留萌ネットワークセンターに異動となり2ヶ月が過ぎようとしています。

昭和59年(1984年)に北海道電力(株)へ入社してから当事業所で13事業所目、平成20年(2008年)の羽幌営業所から始まった単身赴任生活は連続15年目に入りました。富良野市に自宅があり、家族は妻は一人しかおりませんが、28と23歳になる娘が二人います。

そんな私の波乱万丈とは程遠い平々凡々の「生き立ち」育った環境について、おそらく性格や行動、考え方が作られたと思われる幼少期と社会人として歩む方向が決まった高校時代について、何とか一つの笑いで取れるようにお話し、当社PR資料をお配りしていますが、時間が許せば最後に少しでも当社についてお話をさせて頂きたいと思ひます。

誕生日は、昭和40年(1965年)6月29日・かに座・A型、来月で57歳になります。出生地は、上川郡美瑛町字美馬牛という小さな部落で体重3990gとややビッグに生まれました。母は初産だったこともあり、陣痛が始まってもなかなか出てこずに大変だったと言っていました。既製のベビー服や帽子では合うサイズが無く、100日の写真は母の手編みのニットの服と帽子で撮られています。今面影は全くありませんが、その頃の私は近所で評判の非常に可愛い赤ちゃんで、連日、近所の美馬牛マダム達が「よしひこちゃん連れて帰っていい？」と私を借りに来て連れて帰るほどであり、時間制限付きではありますが近所の人にレンタル移籍をしていました。

その頃、父は自営業を営んでおり、現在では珍しい「装蹄師」であり、昭和36年、父が24歳独身の時に師匠から独立し「装蹄所」を開いておりました。さてこの「装蹄師」ですが、おそらく皆さんの中もお解かりの方がいるのではと思ひますが、馬のひづめ(蹄)に蹄鉄を付ける技術者になります。ピンと来ない方は、スマホで検索していただければと思ひます。「装蹄所」はその時代はまだ現役で働いていた農耕馬に蹄鉄を付けすることが仕事であり、地域でも数件しかないことから家業として成り立っていました。写真を見ると商売をやっていたこともあり、早い時期から電話や三輪自動車もありました。

『ちなみに、今はほとんど見かけませんが蹄

鉄（蹄鉄形の装飾品）をフロントグリルに付けている車がありましたが、馬はスピードが出ていても障害物を避けられる（人を踏まない）とのことから交通安全のお守りとしての意味と幸運や魔除けの意味もあり装飾品のモチーフとなっています。』

美馬牛の保育所に通い始めていた私は、可愛い赤ちゃんから悪ガキになってしまったらしく、何をしたかは全く覚えていませんが、父に相当怒られたことは鮮明に覚えています。小学校入学前の幼児に対する躰としては今なら問題レベルで、ここではお話できないこともあります。父の弟である叔父がその頃の話をしてくれた時に、「あれは善彦が悪い」といわれる程でしたので、なかなかの悪ガキだったと思います。父に謝ることをしなく、ある日もやらかした私は、屋外にある石炭小屋に閉じ込められた時も泣く訳でも許しを得ようとする訳でもないため、日が暮れて暗くなった時に母が迎えに来て「お父さんに謝らないと家に入れてもらえないよ」と言われたことを覚えています。さらに悪賢く、外出禁止令が出されていた時も玄関の高い位置にかけられた簡易な「じょっぴん」を椅子と「ドレッキ」で巧みに解錠し、本人は最速だと思っているが明らかに遅い三輪車で逃走する後ろ姿を見た両親は、呆れるやらおかしいやらで脱走犯を見送ったそうです。夕方、明らかに怒られることを覚悟で三輪車を引きずって帰ってくる姿を見てあまり怒らなかつたと聞いています。

その頃の私は良く言えば、正確な状況判断と素早い行動力を備え、大きな相手にも屈しない強じんな精神の持ち主と言えますが、実態は後先を考えない懲りない奴と言えます。

昭和47年、私が7歳のときに家族に大きな変化がありました。3歳下に妹ができ4人家族となっていた谷口家は、父の仕事の関係で北海道を離れ千葉県市川市に引越しをすることになりました。父の仕事は「装蹄師」です。不思議かも知れませんが、千葉県で装蹄師の仕事があるんです。そうです、競馬場の装蹄師の仕事です。移り住んだ千葉県市川市の隣町船橋市には年末の大勝負G1有馬記念が行われる「中山競馬場」

があります。農耕馬がほとんど居なくなり仕事にならなくなったため、千葉県にいた母の弟を頼りに一念発起し、千葉県民となる決心をして津軽海峡をフェリーで渡ったのだと思います。今思うとなぜ、ばん営競馬や北海道競馬ではなかったのかと思いますが、聞いたことはありませんでした。

『ちなみに、農耕馬の蹄鉄は丈夫な鉄製でその場で馬の蹄に大きさをあわせるオーダーメイドですが、競走馬は軽いアルミ製の蹄鉄を取り付けています。』

私は全く友達が居ない環境で小学校に入学しました。小学校1年生ですので、右も左も分らないのは皆同じだと思いますが、独りぼっちで心細かったのを覚えています。そんな環境の中最初に友達となってくれたのはクラスメイトではなく、同じアパートに住むお父さんが騎手の5年生の男の子でした。その子のおかげで、近所の小学生とも学年性別を問わず仲良くなり、楽しい千葉県生活を送ることができました。始めて見る得体の知れない大きな虫がゴキブリだと知って驚いたり、美馬牛の田舎とは違い舗装がされている道路でローラースケートで遊んだりもしていました。また、約束した帰宅時間を守らず遊んでんいたため、玄関の鍵が掛けられ外に締め出されることもしばしばあり、相変わらずの悪ガキぶりも健在でした。この幼少期から小学校低学年までの性格がそのまま今も引き継がれているとするなら自分でもぞっとしますが、大人になった自己分析では、他人に大きな迷惑もかけずにいますので、かなりいい方に転がってくれたのではないかと考えています。

その千葉県民としての生活も1年で終わりがきました。父の体調が悪くなったことで北海道に戻ることになり、父の弟を頼りにいよいよ富良野市へ引越しをしました。私は仲の良かった友達と涙のお別れとなり、母は割の良かった内職が終わるのを残念がっていました。

2年生で転校した富良野の小学校で人生最初の挫折に見舞われます。それはハーモニカが吹けない！そのため、居残りで練習をするようになったのです。千葉での1年生はピアノカ（鍵

## 第23回 5月25日(水) 天候/晴

---

盤ハーモニカ)を練習していたので、そもそもハーモニカを吹いたことがなかったのです。相当悔しかったのか、泣きながら帰宅し母に訴えたそうです。家でも練習し、この難局を乗り越えることができました。今は諦めの早い性格とっていますが、この頃はがんばり屋さんであったようです。

次に、それからの人生の進む方向が決まった高校時代の話しをしたいと思います。この高校時代は、それまでの人生で一番良い時代だったと思います。

昭和56年(1981年)、家庭の事情もあり、高校卒業後は就職するため、地元の富良野工業高校(現富良野緑峰高校)に入学。当時の工業高校ですから、短ランにボンタン、カバンは極薄とビーバップハイスクールという漫画そのもので、ヤバイ学校に入学したなーと思いましたが、父はJR、NTT、北電のどこかに就職してくれたらと思っていたようです。部活は中学校の先生の息子さんが3年生にいたこともあり、全道大会への出場経験もある弓道部へ入部。2年生がいなかったため、3年生が引退した後は1年生から副主将(主将も1年生)となり新人戦へ出場しますが、2年生が主体の他校に惨敗。2年生となってからは、やっと対等に戦えるようになり、その年の新人戦では旭川地区大会で優勝。その後、地区では優勝の常連校になりました。自分自身は3年生で国体の強化選手候補に選ばれる等充実した部活動となりました。自分達は叶いませんでしたが、後輩達が全国高校総体・国体の出場を果たし、もちろん自分達の指導の賜物と自負しています。また、2年生から生徒会活動に関わり3年生で副会長となり、学校祭や体育祭の計画や実施を通して生徒会顧問の先生から「過去に関わった生徒会で最強の生徒会だ」と言われたことがあり、非常に誇らしい気持ちになりました。

学校の環境や学力、女子生徒が一人もいないことを除けば充実した高校生活の中で、それまで経験したことが無かった、組織を束ね導く立場や集団の中心的な役割、他人からの期待や信頼というものを感じながら、部活での勝利や生

徒会行事の実行等での成功体験を数多く経験できたことは、社会人となって大いに活かされていると思います。主将や会長を支えるサポート役は自分の性格に合っていると思っていましたので、今の立場にいることは少々違和感があります。

ここまでで、「生い立ち」については終わりとしします。

続いて、入社し39年目となる、当社について少しお話させていただきます。令和2年(2020年)4月1日より北海道電力ネットワーク株式会社となり、送配電会社として3年目となります。地域の皆様には、契約に関する業務(引越し、アンペアの変更)、料金に関する業務(支払い方法や口座の変更)については北海道電力㈱の業務であることから、当事業所での取扱い業務ではないためご不便をお掛けしています。

当社は使命である電力の安定供給の他に様々な取組みを実施しており、停電事故時の迅速な情報提供のため「LINE停電情報サービス」、カーボンニュートラルに実現に向けた取組みとして、「再エネの連携の拡大」とEVの導入や冷暖房エアコンの普及による「電化の促進」、お客さま設備である「高圧開閉器の取替工事」等も展開しています。EVについては災害時の非常電源としての活用を促進するため、4月に事業所に配置された「日産リーフ」でEVからの給電デモを実施いたしますので、お声掛けいただければと思います。また、エネルギー全般について何かあれば、ご相談いただきご対応させていただきます。

今は、会社の第一線機関の長として地域の皆さんに支えられながら、職務を全うしたいと思いますし、留萌ロータリーの一員としてお役に立ちたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

以上で、「我が生い立ち」について拙い話でしたが、ご清聴ありがとうございました。